

師走

〔しわす〕 令和4年12月

一般に先生のことを「師」といいますが、一年の区切りの忙しい月で、人にものを教える先生までも走る月という意味があります。

発行：北海道神社庁一区教化委員会

慎みて怠ること莫れ

なか

古語拾遺

今月のことば

慎みて怠ること莫れ

古語拾遺

景行天皇の御代、日本武尊は東征の途中、伊勢の神宮に詣で、神宮御奉仕の倭姫命に、御暇乞をされた。倭姫命は、天叢雲劍あめのむらくものつるぎ（後の草薙劍）を日本に授けられ、この御言葉をはなむけとされた。人生は常に身を慎み、なまけることなく、精進に精進を重ねよとの意。成功の基は、これ以外にないの意である。

古語拾遺には「日本武命、東夷を征討す。よつて道を枉げて伊勢神宮に詣で、倭姫命にまかりもつしたもうとき草薙劍を以て、日本武尊に授けて教えて曰く、謹んで怠ること莫れ」とある。

（神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋）

季節のまつり

松迎 正月様迎えの「門松が立つ」

新しい年の干支にあたる男「年木樵」が十二月十三日、恵方の山に入って門松用の松の木を伐ってくることを松迎えといいます。農耕民族である日本人は、一年中の耕作と収穫を守る神様を、「歳神様」、「お正月様」などと呼び、正月にはこの神様が門松を伝って降臨すると信じられていました。これが門松の起こりです。



年のあわただしい年末に「市が立つ」

年の暮れ、各所に正月に関係のある飾り物や羽子板、縁起物などを売る「年の市」が立ちます。江戸時代からさかんになったもので、参詣人が集まる社寺の境内や門前などに立つようになり、年末になると各地に年の市が立って、周辺の農漁村などから、正月の準備のために多くの人が集まってきました。なかには、自分たちが作った飾り物、ほうき、縁起物などを売る人もいて、農漁業の収入を補い、正月準備のために貴重な収入源となっていました。

東北地方などの年の市は、年末ギリギリになってから立つので「詰市」と呼び、市によっては、売れ残ったものを捨て値で売る事から「捨市」と呼ばれています。

縁起・縁起物とは？

縁起には三つの意味があります。第一は、精神的な働きを含む一切のものは、種々の原因と縁によって生ずるという意味です。

第二は、社寺などの成立の由来や神仏の霊験の伝説、またはそれらを記した物のことをいいます。

第三は、吉兆のきざし、前兆の事をいいます。ちょっとした出来事を吉兆のきざしと見て、朝に茶柱が立てば「縁起がいい」といって喜び、正月早々病気や怪我の話は「縁起でもない」といって避けるように、いちいち気にすることを「縁起をかつぐ」といいます。

「縁起を祝う」というのは、よいことがあるようにと祝いをして祈ることです。「縁起物」はよいことがあるように、縁起を祝うための品物です。

正月を迎えるにあたり、すす払いをして、新しい神札を祀り、注連飾りを掲げて祈り、よきお年をお迎え下さい。

じじょうまれん 事上磨錬

実際に行動や実践を通して、知識や精神を磨く事。



三色堇（パンジー）

参考文献 『くらしと祭り百話』 小野迪夫（神社新報社）

令和 4 年
2022年

12月

日	月	火	水	木	金	土
				1 赤口 ね	2 先勝 うし	3 友引 とら
4 先負 う	5 仏滅 たつ	6 大安 み	7 赤口 大雪 うま	8 先勝 こと納め 針供養 ひつじ	9 友引 さる	10 先負 とり
11 仏滅 いぬ	12 大安 一粒万倍日 る	13 赤口 一粒万倍日 ね	14 先勝 うし	15 友引 三りんぼう とら	16 先負 う	17 仏滅 伊勢神宮月次祭 たつ
18 大安 み	19 赤口 三りんぼう うま	20 先勝 ひつじ	21 友引 さる	22 先負 冬至 とり	23 赤口 いぬ	24 先勝 一粒万倍日 る
25 友引 大正天皇祭 一粒万倍日 ね	26 先負 うし	27 仏滅 三りんぼう とら	28 大安 う	29 赤口 たつ	30 先勝 み	31 友引 大祓 除夜祭 うま

二十四節気

【大雪 たいせつ】…七日

旧暦十一月子の月の正節で、もう山の峰々は積雪におおわれ、平地も北風が吹きすさんで、いよいよ冬將軍の到来が感じられます。

【冬至 とうじ】…二十一日

旧暦十一月子の月の中気で、この日、太陽が赤道以南の南半球の最も遠い点に行くため、北半球では太陽の高さが一年中で最も低くなります。そのため昼が一年中で一番短く、夜が一番長くなる極点となります。そしてこの日から一陽来復して徐々に日脚はのびていきます。

六曜・選日

- 【先勝】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし
- 【友引】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
- 【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉
- 【仏滅】…万事凶、患えば長びくおそれあり
- 【大安】…何事をするのにも吉の日、大吉日
- 【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉

《選日の吉凶》
 【三りんぼう】…三隣亡日、普請始め、棟上大吉日
 【一粒万倍日】…出資・投資・購入、新規事業開始
 婚姻は吉、借りる、離別は凶

七十二候《12月》

冬至

初候・乃東生（なつかれくさしゅうせい）
 夏枯草が芽をだすころ
 次候・麋角解（さわしかのつのおしな）
 鹿の角が落ちるころ
 末候・雪下出表（ゆきわたりにむぎのび）
 雪の下で表が芽をだすころ

大雪

初候・閉塞成冬（そらさむくふゆとなる）
 本格的な冬がおとされるころ
 次候・熊蟄穴（くまあなにもこもる）
 熊が穴に入って冬ごもりするころ
 末候・鰻魚群（さけのうおむらがる）
 鮭が群れとなって川を遡上するころ

※七十二候とは二十四節気の各節気をさらに3つの候に細分し、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

十三日は、「正月こと始め」

十二月十三日は、江戸時代中期まで使われていた暦では、二十八宿の鬼宿日（きしやく）で、婚礼以外ならすべてのことが吉のめでたい日とされて、正月の準備を始めるにはよいとしてこの日が選ばれました。その後の改暦で日付と二十八宿は同期しなくなりましたが「正月こと始め」の日付は十二月十三日のまま伝わっています。

正月の準備を始めるにあたっては、まず大掃除をしました。正月にはまだ早いですが、汚れた場所を準備するわけにはいかないと考えられて、ほこりだけがなく、けがれも祓い清めて年神様を迎えるための準備を始めました。煤竹売りの売り声が聞かれ、竹の先に葉のついた竹竿が天井などのすす払い用に求められ、「こと始め」の日の風物詩でした。

昔は、この日「松迎え」といって、門松やお雑煮を炊くための巻ぎに必要な木を恵方の山に取りに行く習慣がありました。

安産祈願 12月の戌の日

11日（日）

23日（金）

*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕しております。神社にお問い合わせください。



祝祭日には
国旗を掲げましょう